

## 10. J I T (=Jit In Time)

日本発のビジネス**モデル**と言えよう。

### 1) 用語説明

まずは、インターネットに見つけた説明を2つ程抜粋。

- ・「必要なものを必要な時に必要な量だけ生産する」システム/方式のこと。この意味を表す英語としては本来 just on time が正しいが、誤りである jit が普及し固有の名詞化している。カンバン方式とも言う。
- ・**ジャストインタイム生産システム** (Just In Time : JIT) は、経済効率を高めるための技術体系 (生産技術) である。トヨタ自動車の生産方式 (トヨタ生産方式) の代表的な要素としてよく知られている。カンバン方式とも言われる。“必要な物を、必要な時に、必要な量だけ生産する”こと。アメリカの自動車業界でも JIT (ジット) といえばこのことである。

### 2) トヨタ生産方式

そして、本家本元のトヨタホームページより、以下を抜粋する。

([http://www.toyota.co.jp/jp/vision/production\\_system/just.html](http://www.toyota.co.jp/jp/vision/production_system/just.html))

トヨタ生産方式 ジャスト・イン・タイム——— ムダを徹底的に排除するという思想

「ジャスト・イン・タイム」とは、「必要なものを、必要なときに、必要なだけ」という意味です。自動車のように3万点にもぼる部品から造られている製品を、大量にしかも効率良く生産するためには、部品の調達などのために、ち密な生産計画を立てる必要があります。その、生産計画に応じて「必要なものを、必要なときに、必要なだけ」供給できれば、「ムダ、ムラ、ムリ」がなくなり、生産効率が向上します。

なお、トヨタ生産方式は J I T だけでなく、多くの他の手法と一体となって構成されるものである。見える化、カンバン、アンドンなどの日本語読みの一連の手法が体系化されている。

### 3) J I T の課題

J I T 方式は、在庫を抱えることで発生する費用、場所の確保といったデメリットを解消することで競争力向上を図る方式になっている。反面、方式の欠点として批判されているのは、部品メーカーに皺寄せが回されている、部品入手が困難となった途端に生産不能に陥る、といった点である。

また、ともすれば J I T の方式論が関心の的となるが、実際には方式を使いこなす企業風土の醸成の方が鍵である。方式を形式的に取入れても、成功は覚束無い。

### 4) 装置産業における J I T

トヨタの商品であるクルマは、代表的な組立加工品である。そのために J I T は組立加工業種での手法と考えられてきた節がある。別の業種であるプロセス産業 (装置産業) では、見込生産の形態を取る商品の性質上、J I T 方式は難しいとみなされてきたようにも考える。

近年、プロセス産業を対象とした J I T 手法が、ダイセル化学において生まれた。組立加工業種とはまた別の独自方式となっている。生産性2倍、3倍の成果に注目が集まっている。ダイセル化学が中心となって産官学の研究会も立ち上がり、日本のプラント産業における今後の理想像を示している。今や、組立加工産業のトヨタ方式に対する、プラント産業のダイセル方式、との評価を勝ち得ている。(本家のトヨタがダイセル化学を訪問し、ダイセル独自方式を認知したとの話も聞く。)

### 5) モデリングにおける J I T

「必要なものを必要な時に必要な量だけ」との観点には、生産方式以外にも応用されている。モデリング分野もその一つである。実績データは留まることなく生み出され、多量の蓄積データとなる。増加するデータを単に蓄積しているだけでは、何らの有用情報となり得ていない。そこで、最新情報まで含めて、必要となった時点で必要な最新の数式**モデル**を適宜構築する手法が、J I T 方式のモデリングと呼ばれている。コンピュータのデータ処理能力の限られていた時代には、実現性のない手法であった。I T の技術発展により、高速多量のデータ処理が可能となったことで初めて生まれた手法といえよう。

